

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。いよいよ夏ですね。暑い日が増えます。くれぐれもご自愛ください。

日常会話の中に浸透している仏教用語をお伝えしているかわら版。仏教用語がたくさん定着しているのには驚きます。

先月は「学生(がくしやう)」についてお伝えしました。「学生」は、この世の中の「真実」を追求するために学びます。

この世の中の「真実」とは何でしょうか。それが問題です。「真実」も仏教用語です。

本当に信じられるもの、信じられることに出会いたい。それは、人間の本質的な欲求と言ってもよいでしょう。

「真実」とは、言葉の響きとして「正しい」こと、という語感が伴っています。つまり、「真実」とは「正しい」こと。

しかし、人間は「正しい」ことを巡って争います。人によって「正しい」と思うことが異なるからこそ争いが起きます。家族の中でも、近所づきあいの中

でも、それぞれが「正しい」と思うことが異なるので、争いが起きます。民族や国による争いも同じです。

浄土真宗の開祖、親鸞聖人の言葉として、次の一節があります。

「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よるずのこと、みなもつて、そらごとたわごと、まこと(真実) あることなきに、ただ念仏のみぞ、まこと(真実) にておわします」。

お釈迦様は今から二千五百年前の人です。そのお釈迦様と同じ時代に生きた人が、哲学の元祖ソクラテス。

ソクラテスは「正しい」ことや「正義」は定義できないとしました。以来、今日まで続く哲学の二千五百年の歴史の末に、現代哲学も未だに「正しい」ことや「正義」は定義できないとされています。

仏教は本来、どのように生きるかを考える哲学です。西洋のソクラテス、東洋のお釈迦様、ふたりは東西の哲学のルーツ。そして、いずれも「正しい」ことは一概には言えない、万人に通

用する「真実」は存在しないことを教えています。

仏教の場合、そこで、仏の教え、仏の覚りのみが「真実」であるとされています。仏の教え、仏

の覚りとは、感謝、謙虚、素直な気持ちで全ての事象を受け入れられること。我欲と固執から解放されれば、争いごとは起きないことを論じています。

そういう姿勢で生きることが大切であるということ自体が「真実」であり、何が「真実」かを巡って争うことは、不毛であり、結論のないことであると言うことでしよう。

因みに、現代の哲学者の最高峰はアマルティア・センというインドの学者。アジア人で唯一のノーベル経済学賞受賞者でもあります。

齢八十半ばのセンの最新著書は「正義のアイデア」。その中でも、何が「正義」か、何が「正しい」か、何が「真実」かは定義できない。時間の許す限り熟議を尽くすことが、少しでも良い結論に到達する唯一の道と教えてくれています。

日常会話の中に浸透している仏教用語。まだまだたくさんあり、知らないことばかり。奥が深いですね。

※

※

※

かわら版執筆者大塚耕平

玉山「耕庵」 <https://ko-an.blog/>



知県名古屋生まれ。日泰寺の地元、田代小学校、中学校を卒業。2002年から地元の歴史・文化と振興のために、日泰寺の縁日(毎月21日)に「弘法さんかわら版」をお配りしています。2013年から知立遍照院の縁日でも「弘法さんかわら版」がスタート。

全国先達会、愛知県先達会、東日本先達会などで仏教関係の講演を行っているほか、毎年年末には日泰寺西隣の専修院で「弘法さんを語る会」を開催。中日文化センター「くらしの中の仏教」講座の講師も務めています。

著書に「弘法大師の生涯と覚王山」、「仏教通史」、「四国霊場と般若心経(大法輪閣)」など。

愛知県立旭丘高校、早稲田大学・大学院を経て、日本銀行に18年間勤務した後、2001年から参議院議員。元内閣府副大臣・厚生労働副大臣。

現在、早稲田大学と藤田保健衛生大学医学部の客員教授を兼務。元中央大学大学院客員教授(2005~17年)。早稲田大学博士。

大塚耕平事務所 ☎052-757-1955 担当:あさい

名古屋市千種区覚王山通9-19 覚王山プラザ2F

